

相談対応状況

金融機関別相談件数

地方銀行	12
信用金庫	9
信用組合	1
政府系金融機関	21
合計	43

対応先別相談件数

道立食品加工研究センター	10
道立工業試験場	7
R&Bパーク札幌大通サテライト	7
北海道経済産業局	7
北海道大学	4
NPO法人グリーンテクノバンク	3
その他公設研究機関	4
その他大学	2
その他	1
合計	45

相談対応状況

技術課題が解決	2
アドバイス・検査等がなされ 技術課題解決に向かって 相談継続中	11
相談の初期対応中	15
その他(自己事情により相談終了など)	15
合計	43

(複数の機関に相談している事例もある)

相談事例



グリーンテックス(株)(旭川市)

(1) 技術相談内容・事業内容等

○当社は、高度な土壌改良事業技術をベースに、緑化工事の設計・施工を行う企業。

○パークゴルフ場の芝管理で発生する刈芝をリサイクル→堆肥化・肥料化する事業を試行中。敷地内で堆肥化→土壌還元→品質の良い芝の育成を行う。

○堆肥の過程で発酵臭がかなり発生するため、ゴルフプレイヤーの迷惑にならないように臭いがほとんどでない方法はないものか。

(2) 相談集約機関: 北洋銀行

(3) 相談対応研究機関等: NPO法人グリーンテクノバンク

(4) 相談対応内容

○刈芝は容易に発酵できる原料。発酵の抑制により、臭いを抑えることが必要。稲ワラ、バーク等の配合も効果的。

○積み上げた刈芝(発酵中)の切り返しの頻度、程度を上げれば臭いが抑制される。また、コンクリート製の堆肥版上に刈芝を積み上げる方が排水による土壌汚染の防止にもなる。

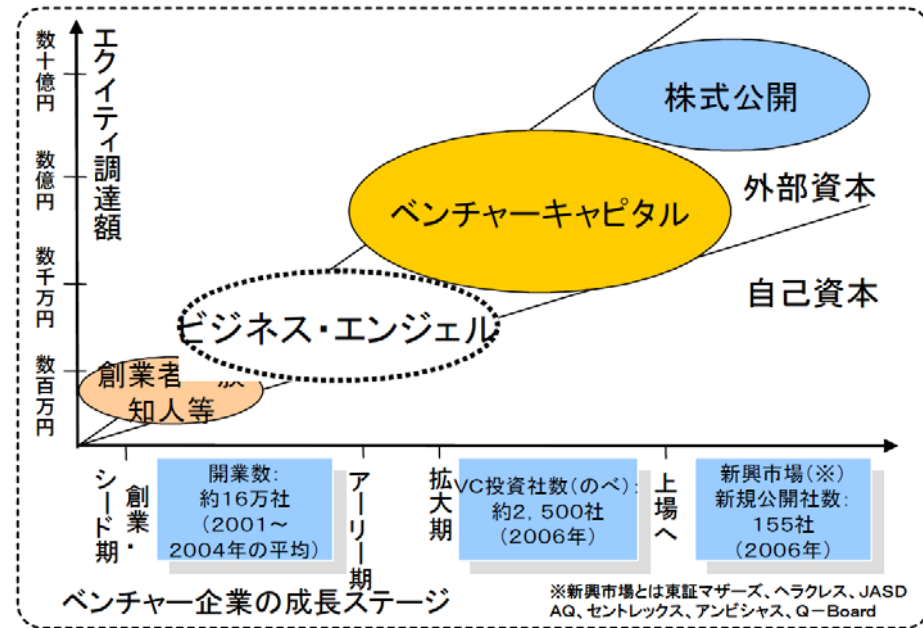
当社は、このアドバイスを実践し、発酵臭の抑制に成功(技術課題の解決)。

現在、さらに研究を進め、高品質の土壌改良剤の開発を実施中。

北洋銀行は本事業の商品化(事業化)に係る資金の新規融資を実行。

ベンチャー企業の資金調達について

ベンチャー企業の成長段階別の資金調達



1. 起業初期

【現状】

- 日本ではエンジェル投資活動が、米国・英国に比して活発ではない。
米国: 約23万人・約3兆円、英国: 約2万人・約1,000億円
⇨ 日本では統計データが無い程度。
- エンジェルネットワークの活動も欧米に比して少ない。
欧米: それぞれ200以上 ⇨ 日本: 数十程度
- 日本のエンジェル税制の利用状況は低調。海外では、より強い税制措置がある。

【課題】

- エンジェル投資家の実態把握、成功事例の収集・PR
エンジェル投資を根付かせる努力。
- エンジェル税制の拡充
投資額一定割合の所得税額控除の導入。手続きの簡素化の検討。
- 「リビング・デッド」(死に体)の取り扱い
個人所有株式の無価値化損失の取扱いについて検討。
- エンジェルネットワーク拡大に向けた取り組み
各地のエンジェルネットワークの連携。
ベンチャー企業情報・エンジェルネットワーク運営のベストプラクティスの共有。
- エンジェル投資支援型ベンチャーキャピタル
エンジェルネットワークとベンチャーキャピタルの連携により、ベンチャーキャピタルによる創生期ベンチャーへの投資活性化を促進する。

成長ステージ	起業初期	成長期	飛躍期
投資家	エンジェル投資家	ベンチャーキャピタル	新興株式市場での投資家
課題	<ul style="list-style-type: none"> エンジェル税制の拡充 エンジェルネットワークの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 資金の出し手の多様化 ベンチャーキャピタル投資の情報提供 ハンズオン支援の強化と人材育成 起業初期企業向け投資への政策支援 	<ul style="list-style-type: none"> 投資家の信頼を取り戻すための取組 機関投資家の呼び込み IPO至上主義からの脱却

2. 成長期

【現状】

・ベンチャーキャピタルの投資規模（投資残高）

欧米:それぞれ数十兆円 ⇔ 日本:1兆円規模

・業界構造

欧米:個人のキャピタリストが経営する独立系ベンチャーキャピタルが多い。年金基金等が出資者の主体。

⇔ 日本:ベンチャーキャピタルは、金融機関や事業会社の子会社が多い。金融機関や事業会社からの出資が多い。

・欧米に比べて日本のベンチャーキャピタルは投資収益率が低い

・プロのベンチャーキャピタリストが少ない。

【課題】

・資金の出し手の多様化

公的年金によるベンチャーキャピタル投資の解禁、外国人投資活性化。

・ベンチャーキャピタル投資に関する情報の収集と提供

ベンチャーキャピタルの投資収益率の実績など、投資家から見て投資しやすい環境を整備する。

・ハンズオン支援の強化と人材育成

投資収益率向上のためのハンズオン支援とキャピタリスト人材の育成。

・起業初期企業に対する投資支援

起業初期ベンチャー企業に対する支援に対して、政策的な対応が必要。

3. 飛躍期

【現状】

・新興株式市場の拡大

7つの新興株式市場が開設され、市場調達環境が10年前に比して飛躍的に改善。

・法令違反等による市場退出例の増加

・個人投資家に支えられた新興株式市場

新興株式市場の取引は、その大半が個人投資家で、機関投資家の参加は限定的。

・足下の株価の不安定・低迷

法令違反等による市場退出事例の増加等を受けて、新興市場に対する投資家の信頼感が低下。

・上場時点での審査の厳格化

前述の問題を受けて、新興株式市場の各取引所は慎重に審査しており、また引受証券会社や監査法人でも同様に慎重となっている。

【課題】

・投資家の信頼を回復するための取組

ベンチャー企業自身の自己規律・ガバナンス強化。

ベンチャー企業の成長と投資家の保護とのバランスのとれた上場審査。

・機関投資家の参加拡大に向けた取組

新興株式市場の国際化、ベンチャー企業を対象としたプロ向け市場整備の検討、アナリスト紹介制度の検討。

・IPO至上主義からの脱却

他の事業会社による増資や買収等ベンチャー企業の資金調達・成長手段の多様化。